

令和3年度 ほうゆう保育園の自己評価

令和4年3月31日

・一人一人の子どもの成長に寄り添った保育が出来たと思う。

・昨年度、市からの要請に従って登園自粛を行った結果、母たちの負担やストレスから家庭内での問題（夫婦喧嘩・DV・虐待など）が増え、相談が急増した。孤独は悪を生むことを痛感。それ以降、自粛の縛りをなくし良いバランスでの登園を促した。各連携機関（児相・家庭支援センター・療育センター）に協力してもらうことの多かった年であった。

子どもは社会で育てるもの。それには園のルールを守ることを何度も呼び掛け、感染対策を徹底させながら登園の継続をした。

・コロナ感染は職員1名、園児2名（兄弟）出たが、休園は2日程度、拡大させることなく済み、感染対策の徹底が出来たことで保護者からの信頼も厚くなった。

・前年度は三密を避けるため行事をなしとすることを選んだが、子ども達の楽しみはもちろん、発達や興味、経験としての影響を考え、全ての行事を行う方向で覚悟をもって取り組んだ。

運動会は乳児と幼児の参加の仕方を工夫し、2日間に分けて行った。発表会はクラスごとに行い、入場から空間を別にした。マスク・消毒・検温の徹底もよく根付いており、トラブルなくスムーズにご協力頂けた。保護者の参加人数も制限を設けず夫婦で見守って頂けたので皆さん喜んでくれた。卒園式も1年の経験をもって感染対策をしながら歌やダンスを披露することが出来、最後にふさわしい出し物を見せられて、満足いくものと好評だった。

・給食室は新規のメンバーでのスタートで模索した1年となったが、お別れバイキングや行事後のお土産のクッキーづくり、園児と距離を保った形での食育時間（七草と節分）、手紙交換など、園児とも交流をしながら充実した関りが持てた。職員間での会議も対面で行ったり紙面上での報告をしたりと工夫しながらコミュニケーションを維持している。

・職員、保護者、園児に対しての今後の見通しとなるような予定やルール、お願いの目的など分かりやすくこまめに文章や対面で説明をしてきた。詳細の方向性を文章で伝えることの意味を理解して頂けたことが、多くのご協力を生んだのだと思う。今後の運営も、得た経験と知識を生かし課題と反省をきちんと繰り返しながら安全な保育をしていく。